令和６年４月１７日

「令和５年度学校関係者評価委員会提言書」を受け次年度に向けた改善方策

世田谷区立二子玉川小学校
校　長　　今福　眞和

令和５年度学校関係者評価委員会からの提言書に課題として指摘された内容について、それらへの対応と来年度の方針、方策を区の施策や本校から区に届け出た教育課程と関連させて以下のようにまとめました。

１、学習指導について

児童アンケートでは４設問ともに肯定的評価が上昇している。特に「話し合い活動」９５％と「タブレット活用」９３％と毎年上昇傾向にある。このことは学習指導において教員の探究的学びを中心とした授業運営と、ICT 活用のスキルの向上など、日々の教材研究の成果が結果として出ていると評価を得た。「児童が自ら学ぶ」授業への改善を継続して進めていく。

保護者アンケートの肯定的評価は、４項目ともすべて増加していることは、保護者が授業での学習状況が分からないという昨年度の課題への対応が結果として表れたと評価されている。学校公開における学習指導について、実際に授業を参観していただき、探究的な学びの姿を発信していく。

〇ファシリテーターとしての指導力向上と、多様な学びの実現を目標とした授業スタイル、授業プランを創り上げていく。

・校内研究では「探究的な学び」の実践をテーマに、キャリア・未来デザイン教育の実践を図る。教員同士がチャレンジ精神をもち、一人ひとりの学びを尊重できる授業づくりに取り組む中で、意見を出し合い、考え話し合うことで日々の授業実践につなげていく。

・昨年度、月１，２回程度、教員による自主的なミニ OJT を実践した。若手から経験豊富な教員まで、勉強してきたことや強みを生かして OJT 講師を相互に務め学び合っている。短時間でも指導方法や教材教具、授業プランを共有し、日々の授業に取り入れていく。

・観察授業、年次研修授業、分科会の提案授業をすべてオープン参加とし、教員同士が相互に授業を見合う機会をもつ。切磋琢磨し指導法の改善を図り授業力を向上させていく。

・二子玉川小独自のハンドサインによる意思表示を全校で実践することや、ユニバーサルデザインを取り入れた学習環境整備を進め、児童が落ち着いて学びに向かう意欲を高める。

・世田谷区 ICT インフルエンサーによる伝達講習を定期的に実施する。タブレットをはじめとする ICT 活用を積極的に行うことができるように、スキルを教員一人一人に身に付けさせる。

・英語教育の推進のため、低学年からの英語活動、ALT、英語支援員を効果的に活用する。

２、生活指導について

児童アンケートの「学校のきまりを守る」の肯定的評価が５％ほど落ちている。それを受けて「先生が注意する」項目は上昇していた。「先生に注意されたことは、理解できる」は上昇し、９２％を超えている。子どもたちが指摘されたことをしっかりと受け止めて、次の行動に活かしてく姿勢を身に付けてもらいたい。それには日々の学校での教育活動の中で、教員と子どもたちの信頼関係をしっかりと構築していく必要がある。本校には「二子玉川小学校４つ約束」という明確な指針がある。常に指導する側の教職員も、指導を受ける側の児童もこの約束を意識させていく。

保護者ついては「教員の指導による子どもたちのルールの理解」の項目が５％ほど上昇している。「生活指導だより」を月１回程度発行し、学校での生活指導を周知してきたことで、保護者も児童と教員の信頼関係について、一定の理解を得ていることも指摘された。さらに保護者の協力を得る協働体制についても継続してお願いしていく。

地域アンケートからは「交通ルールを守っている」の項目の評価が少しずつだが毎年減少傾向にある。玉川地域では、二子玉川交通浄化推進協議会と玉川警察署が連携し、町ぐるみで交通安全の意識を高めている。２００日を超える児童登校日すべてに、交差点等に立って児童の安全を見守ってくださる地域の方々からのご意見として真摯に受け止めたい。日ごろからの交通安全指導に加えて、二子玉川小学校独自の児童が歌唱に参加した「横断歩道の歌」を活用した安全意識を向上させる取り組みや「カルガモプロジェクト（５年生が１年生に横断歩道の渡り方を教える授業）の活動などを通して、繰り返し児童自ら安全に気を付ける意識をもたせていく。

〇生活指導を通して、自ら考え行動し改善に努めることができる児童を育み、地球の一員として行動する視野をもたせていく。

・「二子玉川小学校４つの約束」の意識化
　人に親切にする　正直な心をもつ　約束（ルール）を守る　勉強（仕事）をがんばる
　　以上の４つの約束を日常生活の行動指針として常に意識して行動できるように指導する。
・近年の度東京都人権尊重教育推進校として取組をしてきたことで、学校全体としてお互いを大切にしあう風土が確実に定着している。さらに多様性を受け入れ、自分らしく生きる姿が二子玉川小学校の子どもたちの良い点として挙げられるように取組を継続させていく。
・人権教育につながる特別の教科「道徳」の授業を実践していく。
・児童の気持ちに寄り添うとともに、いじめなど社会的に許されない行為については毅然とした態度で指導を行う。
・「二子玉川クリーンタウン作戦」（地域清掃活動）など、二子玉川にある学校、地域、企業、行政、スポーツ団体が連携する事業がとても多い地域である。様々な活動を通して、社会に貢献する意識や、地球の一員として行動するという視点をもった子どもを育てる。
・PTA と学校運営委員会と連携し、ボランティア活動やゲストティーチャーを招いたキャリア教育の充実を図る。学校、家庭、地域の三者が協働して児童の育ちを支える風土を向上させていく。

３、学校行事について

　コロナ禍が明け、予定していた学校行事はすべて実施できた。保護者についてはすべての項目で肯定的評価が上昇した。児童は「学校行事は楽しい」という項目については８５％を超えたが、「学校行事には達成感がある」の項目は７１％を超えるに留まった。このことは大きな課題と捉える。学校行事についても、児童自らが創り上げていく気持ちをもたせる方策が必要である。行事の内容や演目などについては、児童の声をより多く取り入れていくように工夫していく。

４、キャリア教育について

　児童アンケートの肯定的評価は３項目すべて微減している。保護者アンケートは微増であった。評価委員会の分析から指摘された通り、キャリア教育という新たな教育活動では、その内容について保護者に情報提供が必要であり、児童についてはさらにキャリアや将来、生き方などの意味の理解や授業内容を今まで以上に見極めていく必要がある。地域にはキャリア教育を進める環境があり、これまでもプロジェクト型の学習や、ゲストティーチャーを招いたキャリア授業が実践され有意義な活動になっている。世田谷版基礎的・汎用的能力も活用しながら、キャリア教育としての視点を明確にした教育活動として定着させていく。

５、教職員について

「先生たちは丁寧に指導している」の項目の肯定的意見は児童アンケート約９０％、保護者アンケートも上昇し約８７％となっている。肯定的評価１００％を目標にしているが、それでも多くの教職員が教育活動に熱心に取り組んでいることが評価されたことはありがたい。

「相談のしやすさ」については、どちらも約７割台である。近年の課題であり、学校評価者委員会や運営委員会、道徳授業地区公開講座などでも話題として意見交換をしたが、保護者については「相談しにくい」ということでもなく、教員を気遣う意見もあった。児童については、先生だけでなく、相談できる大人が必ずいることが必要であり、引き続き誰にでも相談できる校内体制を維持し、児童に啓発していく。

６、学校生活全般について

　児童アンケート「学校生活は楽しい」８５％、保護者アンケート「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい」８９％の結果であった。このアンケート項目については全教職員で重点項目として意識する一つの指標となる。常に１００％を目標とする意識をもち日々の教育活動に臨む。

７、学校からの情報提供について

　学校だより、ホームページ等の改善を進めてきた成果もあり、アンケート４項目すべて上昇傾向にある。学校だよりや学校公開についての項目は９０％を超えてきており、成果を感じながらも、さらに保護者・地域とのコミュニケーションを図る工夫を重ねていきたい。

８、学校運営について

　保護者アンケート「校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる」９０．２％の

評価を得たことは、全教職員の励みとなる。この項目も全教職員の重点目標として取り組む指標となっている。今後も児童、教職員、保護者・地域が協力して「笑顔と元気と優しさがあふれる学校」にしていくことを最大の目標とする。

９、学校と家庭の連携について

学校公開への参加については９割前後を維持している。PTA 活動については大きな変革の時期を迎え、新たに「子どもプロジェクト」として自主的な参加型の活動に向かっている。持続可能な活動を目標として、学校、家庭、双方とって有意義な活動となるように進めていく。

１０、地域との連携について

今年度も肯定的評価が上昇し高評価を得ている。二子玉川の地域は教育的資源も豊富で、教育効果の高い活動や授業が実施できている。一方地域の大きな行事「花みず木フェスティバル」に５割、「大山みちフェスティバル」に７割を超える教職員が自主的に参加している。持続可能な地域との連携として今後も友好な関係を築いていく。

１１，学校の安全性全般について

学校の安全性全般に対する保護者アンケートは３項目とも肯定的評価が上昇している。避難訓練に臨む児童の姿はいつも真剣であり、二子玉川小の子どもたちの良い姿勢として挙げられる。避難所運営委員会を軸とした防災訓練等の活動も定期的に実施できるようになってきている。地域と連携して子どもたちの安全を守るための積極的な姿勢を今後も継続していく。

１２、学校経営方針について

継続した取組として、学校、地域、家庭が同じ方向を向けるよう「笑顔と元気と優しさがあふれる学校」を目標にしてきた。児童、保護者、地域ともに同じ項目だが、保護者の肯定的評価は７７％と１２％増加している。学校経営方針のひとつである「ウェルビーイングの向上」を図るための一つの指標として、今後もさらに理解を深めてもらえるように発信していく。

１３、学校生活の充実について

「あいさつや返事をすることを意識している」について児童は８８％の肯定的評価であった。教職員も意識を高めて取り組んでいる。「４つの約束」については一項目、今年度「うそをつかない」より「正直な心をもつ」と前向きに取り組める目標に変更した。児童アンケート「４つの約束」の肯定的評価は７５％だが、取組目標としてもっと意識を高めていくことが課題である。

１４、地域運営学校の取り組みについて

「地域の子を育てる」「地域と連携した教育活動」の項目は肯定的評価が９割を超えるものもあり、高評価を得ている。商店街や地元企業との連携も盛んな地域である。キャリア教育との関連も考慮し、子どもたちが自分の学校や地域に愛着をもつことができる教育活動の実践に努めていく。

１５、特色ある教育活動について

「地域の特色を生かした学習の展開」の項目は、保護者９４％、地域９１％と高い評価を維持している。二子玉川の立地を生かした、多摩川での自然体験活動や、地域の催しや、地元企業と連携した活動が評価されているといえる。「ウェルビーイングの向上」の項目については７割に留まったが、ウェルビーイングの文言も本年度からであり、さらなる浸透が必要である。

本年度は新たに戦時中の疎開先であった、長野県の中川村にある小学校と交流を進める。未来に渡って持続していく交流の在り方を模索していきたい。